一般質問

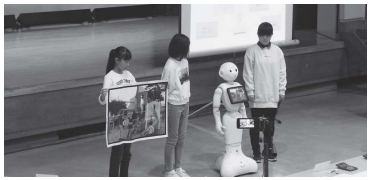
本市の教育行政について

太田 淳一 議員

問 学習指導要領の改訂に伴い、小学校中学年で外国語活動、高学年で外国語科が導入されるが、本市における英語教育について、具体的にどのように進めていくのか。また、どのような事業を展開していくのか伺う。

答 今般の改訂を踏まえ、本市における英語教育活動については、英語教育カリキュラムの作成及び授業改善の支援、英語教育の指導力向上、各校における英語環境の充実・強化、英語を使ったコミュニケーション・体験活動の充実を基本に、事業構築を進めていく。また、事業については、体験型英語教育施設の活用や英語検定試験受験の支援、小学校の英語担当教員の指導力向上を図る研修の充実など、英語教育の推進を図る体制を整備してく考えである。

問 平成29年4月より、ソフトバンク株式会社から市内小中学校に対し人型ロボットペッパーが3年間限定で無償貸与され、プログラミング学習を先行的に取り組んでいるが、次年度のプログラミング学習の進め方について伺う。



スクールチャレンジ南相馬市大会

答 現在ソフトバンク社より、各校1台であれば無償貸与が可能であること。また、ペッパーのソフトを更新することにより、1台で1学級程度のプログラミング学習が可能となるという提案を受けている。3年間の実績に加え、教員への研修実施により、現場の指導力も確実に向上していることから、次年度以降もペッパーを活用したプログラミング教育を検討している。

質問を終えて

改訂に伴い、学校現場の負担増とならないよう、更なる市の支援を求めます。

その他の質問

❶まちなかひろばの今後について

災害に強い南相馬市の構築を

田中 一正 議員

問 10月の台風の際、ダムの緊急放流により被害が拡大したように感じるがダムの放流のあり方について伺う。

答 今回の災害の状況に鑑み、貯水率やダム放流など防災面を考慮し、管理の方法について県や関係機関と協議を実施していく。

問 台風19号、21号の大雨の際に横川ダムは1回の放流で済んだが高倉ダムは2回の放流をしている。高倉ダム流域の被害が大きかったのは2回の放流の影響と思う。事前放流を行い水量の調整が必要ではなかったのかと感じるが見解を伺う。

答 高倉ダムは台風19号の際、96%まで貯水した。その際の放流により河川、道路が壊れたので、続けて放流ができなかった。再び25日に大雨が降りダムが一杯になり放流せざるを得なかった。

問 ダムの緊急放流により、全国で大きな被害が発生している。国でも今回の甚大な被害を受けてダム放流の対策を検討している。本市としての今後の水害回避の対策は。

答 高倉ダム、横川ダムは利水ダムであり農業用水、工業用水を供給する役目がある。放流により水が足りなくなった状況を考え、利用者との事前協議が必要になる。管理規定を新たに作らなければならない。国では利水ダムでも洪水調整も出来るよう見直す方向で検討しているが少しでも早い対応に努めて行く。

ダム放流により決壊した堤防（高倉地区）

質問を終えて

災害は忘れた頃にやって来る。日頃から防災知識の周知、普及を。

その他の質問

❶自助・共助・公助の取り組みは

❷地域の身近な場所への避難所設置を

❸小規模林地開発の対応について

一般質問

さらなる復興に向けて

細田 廣 議員

復興記念事業の開催について

問 東日本大震災から10年目となる節目の年を迎えるに当たり、南相馬市民が元気になりつつある姿を発信できる記念事業の開催について見解を伺います。

答 復興途上の状況もありますが、ご支援を頂いた皆様に感謝の気持ちをお伝えしたく、記念事業の開催を検討してまいります。

鹿島厚生病院の再編・統合について

問 厚生労働省公表の424の再編・統合が必要な公立・公的病院に、鹿島厚生病院が含まれている。今再編・統合の時期ではないと考えますが、市としての考えを伺います。

答 議論を行い、地域医療の方向性を決めてほしいとの要請だと受け止めている。

地域に必要な病院で、存続が必要と明確に申し上げ、不安払拭に努めてまいりたい。

地域医療を担う鹿島厚生病院

進入路増設について

問 鹿島生涯学習センターへの進入路は1路線だけです。通行止めとなれば施設は孤立となることから増設の考えを伺います。

答 周辺地区は起伏の厳しい地形が多く整備の予定はありません。

代替え進入路は検討課題と考えています。

大雨が想定される場合には、道路破損、損傷などの未然防止の管理をしてまいります。

質問を終えて

質問内容の他にも課題はまだまだあります。

政務活動でしっかりと取り組みます。

その他の質問

❶福島イノベーションコースト構想推進について

❷都市計画道路岩妻茂手線（鹿島区）の事業スケジュールについて

高齢者の安全・安心な生活について

渡部 一夫 議員

問 子育てに重きを置くと同時に、高齢者の生活維持に向けた対策をおろそかにする訳には参りません。特に、本市におけるこれからの高齢化率を考えるとき、その対策を急がなければならないと考えますが、見解を伺う。

答 本市の高齢化率は35・0%で上昇傾向にあり、ひとり暮らしの高齢者及び高齢者のみの世帯も増加傾向となっている。高齢者の安全・安心な生活の維持は今後の重要な課題の1つであると捉えている。

今後は、各種支援体制について、本市の社会状況の変化に応じた対策を充実、強化することにより、住みなれた地域で生きがいを持って安心して暮らし続けられる地域づくりを推進していく。

高齢者施設「福寿園」

問 日本疫学会誌に、車の運転をやめて自由に移動する手段を失った高齢者は、運転を続けている人と比べ、要介護状態になるリスクが2・2倍になるとの研究結果がある。併せて「バス路線を維持・充実させるなど、活動的な生活を送る支援も必要」と指摘しているが見解を伺う。

答 運転免許証の返納後は、外出の機会が減少するなど、日常行動が制限されることにより、要介護状態になる可能性が高くなるという報告だと捉える。

本市としては、現在定額タクシー「みなタク」を運行しているが、みなタクを含めて公共交通の維持改善に努めていきたいと考えている。

質問を終えて

議員改選後2年目に入ります。台風19号及び豪雨対策は、特別委員会にて今後対応することになります。

その他の質問

❶太陽光パネルの破砕選別施設について

❷働き方改革の推進について

❸災害公営住宅について